

通し番号	4425
------	------

分類番号	21-30-13-02
------	-------------

(成果情報名) ブドウ栽培におけるイヌの被毛の設置によるハクビシン食害防止
[要約] ブドウ平棚栽培において、着色期から成熟期にかけイヌの被毛を10gずつネットに包み、平棚の柱およびブドウの主幹に、約1mの高さで設置すると、ハクビシンへの忌避効果によりブドウ果房に対する食害を防ぐことができる。
(実施機関・部名) 神奈川県農業技術センター・果樹花き研究部 連絡先0463-58-0333

[背景・ねらい]

近年、県内のブドウ栽培ほ場でハクビシンによるブドウ果房の食害が増加している。そこで、イヌの被毛をネットに包んで設置した時のハクビシンへの忌避効果を明らかにし、ハクビシンによるブドウ食害防止技術の一つとして確立する。

[成果の内容・特徴]

- 1 ハクビシン食害(図1)が発生した農業技術センター内の熟期を迎えたブドウ園地で、ブドウの主幹及びすべての支柱と周囲柱にイヌの被毛を10gずつ入れたネット袋を設置すると(図2)、ハクビシンによる食害はほとんどなくなり、以後、収穫終了までの15日間、忌避効果が持続する(図3)。
- 2 部分的な設置では食害は完全に回避できない。設置箇所数は園の構造により異なるが、すべての主幹、支柱、周囲柱に設置すれば安定した効果が発揮される(表1)。
- 3 上記の方法でイヌの被毛を設置すると、園の立地にかかわらずハクビシンによる食害は認められなくなり、高い忌避効果が期待できる(表2)。大粒ブドウの熟期より少し前の8月上旬に設置すれば、効果は主要品種の収穫が終了する9月中旬まで維持されるため、途中で交換する必要はない。

[成果の活用面・留意点]

- 1 設置する高さは地表0.8m~1.2mとする。
- 2 イヌの被毛は、トリミング店や動物病院から入手することができる。

[具体的データ]



図1 ハクビシンによる食害
(袋を破き、皮を下に落とす)

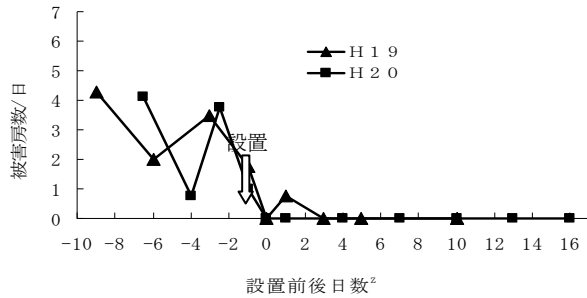


図3 ブドウ園におけるイヌの被毛の設置が、ブドウ果房の食害数に及ぼす影響

²設置日の翌日を0とした前後日数を表す



図2 イヌの被毛の設置の様子 (A 主幹、B 周囲柱)

表1 農業技術センターブドウほ場 (30.3a) におけるイヌの被毛の設置方法の違いがハクビシンによるブドウ食害房数に及ぼす影響 (平成21年度)

項目	設置前(月/日)			設置日(月/日)	設置後(月/日)	
	~8/6	8/7~13	8/14~20	8/20	8/21~8/27	8/28~9/3
食害房数	7.5	6	23.5	全面設置(13a)	0	0
				一部設置(17.3a) (被害部7a周囲)	3	2

表2 農業技術センター(農技セ)、農業アカデミー(アカデミー)および現地圃場において、全支柱及び樹幹にイヌの被毛を設置したときの設置前後のハクビシンによる被害発生状況(平成21年度)

設置場所	ほ場面積	設置面積	設置箇所数(aあたり)	設置日	収穫終了日	食害房数(房/日)	
						設置前	設置後
農技セ	30.3a	7a	35箇所(5.0)	8/20	9/29	3.3	0
アカデミー	10a	10a	99箇所(9.9)	8/21	9/4	2.0	0
藤沢市I園	10a	10a	70箇所(7.0)	7/28	9/25	3.0	0
平塚市K園	30a	20a	92箇所(4.6)	7/31	9/20	2.0	0

[資料名] 平成19、20、21年度試験研究成績書(果樹)

[研究課題名] 3 落葉果樹の高品質安定生産技術の確立

(1) 落葉果樹の直売向け品種の安定生産技術の確立

ア ブドウ圃場における犬毛設置がハクビシンの果房食害に及ぼす影響

[研究期間] 平成19年度~平成21年度

[研究者担当名] 関達哉・曾根田友暁・柴田健一郎